単元の言語活動４

視点を変えて、物語を書き換える

活動のねらい

物語は、複数の視点で描かれることもあるが、多くの場合、ある視点によって書かれている。物語に描かれる話を立場の異なる登場人物の視点で捉えなおしてみることにより、物語への理解を深めようというのがねらいである。このような作業は他者の立場になって考える、批判的思考力を育成することにもつながる。

タイトル・序文の解説

何らかの関係が終わった際に、当事者二人の捉え方が異なる場合がある。いっぽうは円満に解消したと感じ、もういっぽうは解消したことによって傷ついていると感じる場合もあることだろう。出来事としては同じであると考えられても、立場が変われば捉え方が異なることがある。そして異なる捉え方を理解することができれば出来事の対処の仕方に幅が広がることになる。そして、物語でそのような試みを行うことは物語を深く理解することにもつながるのである。

「課題」の解説

課題　**視点を変えて「梓弓」の物語を書き換え、「男」の心情を表現してみよう。**

「梓弓」は女性の視点から描かれた物語である。相手の男性については行動や和歌は書かれているものの、心情については書かれることはない。物語の場面、場面で書かれていない男性の心情を想像して物語を違う視点から書き換えてみよう。

「活動」の解説

1　**「梓弓引けど」「あひ思はで」のそれぞれの歌を詠んだときの「女」の心情を、表の中に整理してみよう。**

和歌の前までの物語のストーリーを踏まえたうえで、二つの和歌に込められた「女」の心情を考える。

「梓弓引けど」の歌には女の、元の男を思う気持ちが込められている。

帰って来ない元の男をずっと待ち続けていたが、三年が過ぎ

て、心を込めて言い寄って来る別の男を受け入れる気持ちになった。しかし、それは元の男とは永遠に会えないと考えたからであった。そこに元の男が帰って来た。いったんは理性的に別の男との経緯を歌にして伝えたものの、愛情が続いているとの元の男の返歌を読んで自分の本当の心に気づく。つまり、自分は今でも元の男を愛しているということであり、それを歌に詠んだのである。「女」の心情としては

・帰って来た元の男のことを今だに愛している
・待ちくたびれて別の男といっしょになろうとしていた
・別の男との約束は守らなければならないと思っていたが、

そこには元の男以上の愛情はないことに気づいた

等が考えられる。

「あひ思はで」の歌には「女」の、絶望が込められている。お互いに今でも愛し合っていたのに、元の男は女がその思いを告げる前に姿を消し、追いかけたものの追いつかず、「女」の気持ちを伝える術は永遠になくなってしまった。自分の正直な気持ちがはっきりと分かった以上、この先、元の男を思い続けながら、別の男と生きていくことはできないと考え、「女」は死を決意することになる。「女」の心情としては

・元の男のことを今でも愛している
・愛する気持ちをすぐに伝えなかったことを悔やんでいる
・元の男が去っていった今はもう生きてはいけない

等が考えられる。

思判表B(1)イ

2　「梓弓引けど」「あひ思はで」のそれぞれの歌に対して、「男」はどのような心情を抱いたかを想像し、表に書き込もう。

「女」の二つの和歌に対して、それを元の男が目にしていたらどのような気持ちを抱くのかを想像してみる。その際に1で考えた和歌に込められた「女」の心情も参考にする。

「梓弓引けど」の歌には、可能ならば「女」ともう一度やり直したい気持ちを抱いたのではないだろうか。

新しい別の男と幸せに暮らせと返歌はしたものの、元の男も実際はまだ「女」を愛しており、「女」と暮らすために一人で都でがんばってきたのだから、できればもう一度やり直して幸せに暮らしたい、自分も昔から心はあなただけとともにあると思っている。また、事情はあるものの三年間、連絡をしなかったことを悔やんでいると考えられる。

・私も本当はまだあなたを愛している
・今は新しい別の男との幸せを願おう
・三年も連絡しなかった自分が悪い

等が考えられる。

「あひ思はで」の歌には、死なないで欲しい、これからもともに生きていこうという気持ちを抱いたのではないだろうか。

男が「女」の追う気配を感じて、振り返り、清水の元に倒れ込む「女」を見つける。死のうとしている「女」を見て、死なせてはならないと思い、自分の、まだ「女」を愛している気持ちを確認し、愛しいと思い、これからもいっしょに生きていきたいと思う。

・追いかけて来てくれたことを嬉しく思う気持ち
・今でも「女」を愛している

・これからはずっといっしょに生きていこうという気持ち
等が考えられる。　思判表B⑴イオ　主態

▼評価のポイント▲　1、2はワークシートがあるので、それを記入後に集めて確認することができる。物語からは導くことが難しい心情が書かれていたら理由を聞いてみるとよい。事前に想像していた以上のストーリーを生徒が考えている場合もある。丹念なやり取りをしたい。

3

「男帰りにけり。」以下を「男」の物語に書き換えよう。

①　グループを作り、ひとりひとりが考えた「男」の心情についてグループ内で発表し、意見をまとめる。

グループを作った後、それぞれで元の男の心情の経緯を考える。その際、

ⅰ「この戸開け給へ。」と戸をたたいた時
ⅱ「あらたまの」の歌を聞いた時
ⅲ「梓弓ま弓槻弓」の歌を返した時
ⅳ「梓弓引けど」の歌を聞いた時
ⅴひたすら「女」の家から離れようとした時

というように場面を分けて、それぞれの場面での心情を考え、参考にする。最後に「あひ思はで」の歌を聞いていたとしたらどのように思ったかも付け加えて考える。個人の作業終了後、場面ごとに心情を検討し、グループの意見をまとめる。

②　グループでまとめた意見に従って、「男」の心情に基づいた「男」の行動を考える。

物語では大まかな行動しか示されていないので、もう少し詳細な行動を付け加えて行く。例えば、戸をたたいて待っている場面では「じれったく思い、足踏みをしている」、「待ちきれなくて何回も戸をたたく」などと付け加えていく。①で考えた心情とここで考えた行動を参考にして、後半の部分を書き換えていくことになる。

③　「男帰りにけり。」（六九・11）以下を「男」の視点の物語に書き換える。

「男帰りにけり」以下の部分は「女」の描写しかない。それと並行している元の男の物語を、現代語でよいので書いていく。それぞれで書いてグループでまとめてもよいし、初めから相談しながら書き進めてもよい。「梓弓引けど」の歌は「往なむとしければ」とあるので、元の男が帰ろうとしているところに詠みかけていると考えられる。和歌を耳にしていながら元の男はどのような心情で去ろうとしたのか、「女」のまだ愛しているという心情がわかっているのにそれほど急いで離れようとするものなのか、等考えるポイントはたくさん見つかるであろう。それらを書き進めていくことになる。

例えば次のようなストーリーが考えられる。

男は「女」の「梓弓引けど」の和歌を聞いていたが、「女」の

新しいスタートのことを考え、身を引こうと考えて、「女」の家を離れる。しかし、「女」のことをまだ愛しており、気持ちは「女」の家の方にある。「女」が家を出て、追いかけてくる気配がする。元の男は「女」を愛しいと思う気持ちがまだ強いことを確信するが、心を鬼にして、歩みを早める。しばらくして、「女」の気配が消えていることに気づき、戻ってみると泉の側に「女」が倒れており、傍らの岩に血で歌が書きつけられている。その歌を読み、お互いがお互いを求めていることが分かり、「女」を介抱すると、「女」は奇跡的に息を吹き返し、ふたりは固く抱き合う。もうひとりにはしないと元の男は「女」に言って、ふたりで家に帰る。その夜は別の男が来るかもしれないので扉を固く閉ざして、息を殺していた。

思判表B⑴イオ

4　「男」の視点の物語を発表しよう。

①グループでまとめた「男」の物語を発表する。

元々は悲劇的結末で終わっていたが、男の視点で考えることによって、現実離れしているかもしれないものの、ハッピーエンドの結末を迎えるように読みかえることができた。

このようにハッピーエンドを考えるグループが多く、似たようなものとなるかもしれないが、視点を変えて物語を捉え直すことが狙いなので気にしないようにする。視点を変えるという考え方があることに気付かせることを重視したい。そして視点を変えると行動の仕方次第で、ふたりの絆が深まる方向に進む可能性も見いだせることが分かるとよい。

②発表を聞いて、共感できる点をあげる。

それぞれのグループの発表を聞いて、共感できる点をメモしよう。その中で自分たちが考えられなかった行動や心情があった場合にはその妥当性を検討してみよう。あくまでも元の物語があっての書き換えなので、元の物語から発展するのに無理がある話になるのはあまり好ましくない。

知技⑴ア　思判表B⑴オ　主態

▼評価のポイント▲　グループで作成したストーリーはワークシートや発表で確認する。物語に即した範囲でユニークなストーリーを考えたグループには高評価を与えてもよい。また、多くの生徒から共感する部分があったとされたグループにも高評価を与える。

評価規準

〔知識・技能〕⑴ア　言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。

〔思考力・判断力・表現力等〕B⑴イ　「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。

〔思考力・判断力・表現力等〕B⑴オ　「読むこと」において、

作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕　進んで昔の人の恋のあり方について理解し、歌物語に親しみ、今までの学習を生かして、想像力を働かせ、人物の心情を考えようとしている。

◎学習指導要領の言語活動例との関連

〔思考力・判断力・表現力等〕　B⑵エ

（畠山　俊）